

教育委員会に関する事務の管理 及び執行状況の点検及び評価報告書

(平成26年度実績)

—目 次—

I	はじめに	1
II	教育委員会の点検及び評価の実施方針	3
III	教育委員会会議等の点検及び評価	5
IV	主要施策及び事業の点検及び評価	8
V	学識経験者の意見（総評）	15

平成27年9月

土岐市教育委員会

I はじめに

(1) 点検及び評価について

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。

このため、土岐市教育委員会では、事前に教育委員会が立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることなど、その活動を充実するように努めてきました。

こうした中、平成19年6月に公布された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成19年法律第97号）において、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務づけられました。また、この点検及び評価に関することは、教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関することと同様に、教育長に委任することができないこととされました。

根拠法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）
第27条（一部省略）

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

このことを受けて、土岐市教育委員会では、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を「教育委員会に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書」としてとりまとめ、住民の代表である議会に提出し、公表することにより、市民への説明責任を果たそうとするものであります。

(2) 点検及び評価の基本的事項

○教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検及び評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないことが法律で規定されました。

土岐市教育委員会では、平成27年度に平成26年度の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめ市議会に提出し、教育委員会ホームページで公表を行います。

○どのような方法で点検及び評価を行うか、また報告書の様式、議会への提出方法などについては、国が基準を定めるのではなく、各教育委員会が実情を踏まえて決定することになります。

土岐市教育委員会では、平成22年度までは、第五次土岐市総合計画をベースに点検及び評価を行ってきましたが、平成23年度（平成22年度実績）からは、平成22年に策定した土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」をベースに点検及び評価を行うことにしました。

○教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、点検及び評価の客観性を確保するためのものです。活用の仕方については、評価の方法や結果について、教育に関し学識経験を有する者の意見を頂く機会を設けることなどが考えられます。このことについては、各教育委員会の創意工夫により対応することになります。

土岐市教育委員会では、土岐市教育委員会の点検及び評価に関する有識者設置要綱（平成21年土岐市教育委員会告示第1号）に基づき、教育に関し学識経験を有する者の中から有識者（2人以内）を委嘱し、意見を頂くことにしています。

Ⅱ 教育委員会の点検及び評価の実施方針

1 趣 旨

- ・土岐市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- ・点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

2 実施方法

- (1) 土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」をベースに、「第2章 基本計画～今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策～」を対象とした点検及び評価を行う。

土岐市教育委員会の基本計画

節	内 容
1	豊かな心と確かな学力を身に付けた健やかな子どもを育てます
2	学びに打ち込める教育環境を整えます
3	教員の資質・指導力を高めます
4	家庭の教育力を高めます
5	地域の教育力を高めます
6	地域づくり型生涯学習を推進します
7	文化芸術活動を振興します
8	スポーツを振興します

評価の目安

評価指標	評 価 内 容
A	達成している
B	概ね達成している
C	あまり達成しているとはいえない
D	達成していない

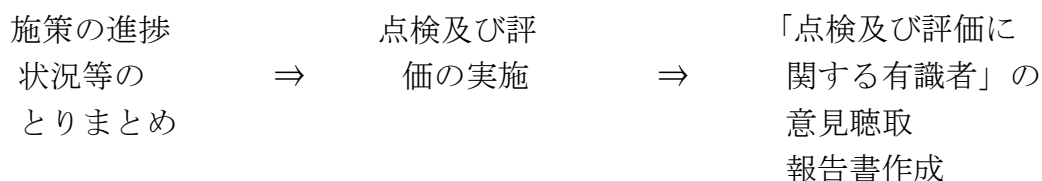
実績または今後の課題

取組の概要または、施策の実現に向けた今後の課題等を示す。

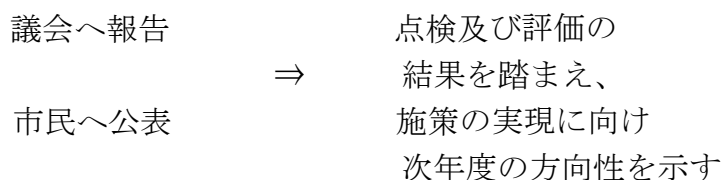
- (2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取り組みの方向性を示すものとし、毎年1回実施する。
- (3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、学識経験者の意見を頂き、教育委員会において点検及び評価を行う。
- (4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「土岐市教育委員会の点検及び評価に関する有識者（以下「有識者」という。）」を置く。
- ①有識者は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。
②有識者の任期は2年とする。
- (5) 教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を土岐市議会へ提出する。また報告書は公表するものとする。

3 点検及び評価の流れ

4 月	7 月	8 月
-----	-----	-----



9 月	2 月
-----	-----



Ⅲ 教育委員会会議等の点検及び評価（平成26年度）

区 分	実 績	成 果 ・ 課 題
教育委員会 会議の実施 状況	<p>開催回数：定例会議 12回 臨時会議 1回</p> <p>審議件数：議 案 29件 （内 専決報告 1件） 可決した議案 29件 報 告 10件 その他教育長報告 12回</p>	<p><成果></p> <p>月1回の教育委員会定例会を開催し、教育委員会の歳入歳出予算、条例・規則等の例規、人事案件等の議事案件（別紙）について慎重審議し、円滑で適正な教育行政の運営ができた。</p> <p>土岐市教育振興基本計画の後期計画を策定した。</p> <p><課題></p> <p>今後は、土岐市教育振興基本計画の後期計画に沿って、教育行政の推進を図っていく必要がある。</p>
活動の状況 等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問（教育長訪問に同行、随時訪問） ・教育関係のイベント、式典に参加 ・市内教育施設の現場視察 ・市町村教育委員会連合会研究総会に参加 ・東濃西部教育委員研修協議会に参加 ・先進地視察研修 平成26年7月8～9日 三重県亀山市教育委員会 関中学校 岐阜県関ヶ原町教育委員会 歴史民俗資料館 古戦場等史跡 目的：歴史や郷土の文化的財産を生かした教育について研修を深める。 	<p><成果></p> <p>学校や教育施設などの教育現場に赴き、担当者の生の話や実態を直接見聞きすることにより、より具体的な実態把握や意見交換、意思疎通を図り、今後の教育行政の方策の立案に活かすことができた。</p> <p>また、本市の実態を踏まえ、研修参加や先進地視察を行い、今後の教育行政を推進していく上で、課題や改善点が明確になった。</p> <p><課題></p> <p>教育行政を進めるためにも予算の確保が必要になる。予算編成権は首長にあるため、総合教育会議で調整を図っていく。</p>

<別紙>

平成26年度土岐市教育委員会提出議案等について

委員会回数	議決年月日	議案番号	提出議案
第4回定例会	4月21日	報第 3号	土岐市嘱託員、学校評議員等の委嘱等について
第5回定例会	5月19日	議第 9号 議第10号 報第 4号	土岐市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 平成26年度岐阜県教科用図書東濃地区採択協議会の設置について 土岐市嘱託員の委嘱について
第6回定例会	6月30日	議第11号	土岐市立幼稚園園則の一部を改正する規則について
第7回定例会	7月18日	報第 5号	土岐市嘱託員の委嘱について
第8回定例会	8月12日	議第12号 議第13号 報第 6号	平成26年度土岐市一般会計補正予算のうち教育費に係る補正予算について 平成27年度使用小・中学校用教科用図書の採択について 土岐市嘱託員の委嘱について
第9回定例会	9月11日	議第14号 報第 7号	教育委員会に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について 土岐市嘱託員の委嘱について
第10回定例会	10月 7日	議第15号 議第16号 報第 8号	岐阜聖徳学園大学と土岐市教育委員会との連携協力に関する協定書の締結について 土岐市教育振興基本計画策定委員会設置要綱について 訴えの提起について
第11回定例会	11月21日	議第17号 報第 9号	土岐市立幼稚園条例の一部を改正する条例について 土岐市文化財審議会委員の委嘱について
第12回定例会	12月15日	報第10号	土岐市教育振興基本計画策定委員会委員の委嘱等について

委員会回数	議決年月日	議案番号	提出議案
第1回定例会	1月26日	議第1号 議第2号 議第3号 議第4号 報第1号	土岐市立小中学校管理規則の一部を改正する規則について 土岐市放課後教室実施要綱の一部を改正する告示について 平成26年度二宮文化賞の授与について 専決処分の報告及び承認について 専第1号 市職員の人事異動について 平成26年度土岐市教育文化賞の授与について
第2回定例会	2月18日	議第5号 議第6号 議第7号 議第8号 議第9号 議第10号 報第2号	平成27年度土岐市一般会計予算のうち教育費に係る予算について 土岐市立小中学校の施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について 土岐市教育委員会職員の勤務時間、休暇等に関する規程の一部を改正する訓令について 土岐市教育振興基本計画（後期計画）について 平成27年度土岐市学校教育の方針と重点について 廃校となる土岐市立鶴里小学校と土岐市立曾木小学校への証の授与について 土岐市指定無形文化財の指定及び認定の解除について
第1回臨時会	3月6日	議第11号 議第12号	感謝状の授与について 県費負担教職員の人事異動内申について
第3回定例会	3月26日	議第13号 議第14号 議第15号 議第16号 議第17号 議第18号 議第19号 議第20号	土岐市教育委員会公告式規則について 土岐市教育委員会会議規則について 土岐市教育委員会事務局組織規則等の一部を改正する規則について 土岐市通学費補助金交付規則を廃止する規則について 土岐市スクールバス運行に関する要綱について 土岐市立幼稚園園則の一部を改正する規則について 土岐市立幼稚園預かり保育実施要綱の一部を改正する告示について 市職員の人事異動について

IV 主要施策及び事業の点検及び評価

1 豊かな心と確かな学力を身に付けた健やかな子どもを育てます

施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
幼児期からの教育の充実	3歳児から幼稚園児を受け入れます。	B	・肥田幼稚園で4歳児保育を開始した。 ・子ども・子育て支援事業計画を策定し、幼保一体型施設である認定こども園整備について検討を進めた。 ・平成27年度は、のうなん保育園の認定こども園化を進め、泉・下石小学校区での認定こども園建設に向けた合意形成を目指す。
	幼保一体型施設の適正配置をします。	B	
「土岐市幼稚園、小・中学校教育指導の方針と重点」の具現	各園、学校において方針と重点を具体化し取り組みます。	A	・各園、学校において方針と重点の具体化のため、各校で重点的に取り組む内容を3つに絞り、職員が一丸となって取り組んだ。
	学校訪問（「教育長訪問」、「研修訪問」）を実施し、指導助言を行います。	A	・各幼稚園と各小・中学校へ1回の「教育長訪問」、市指定校を中心とした小・中学校へ「研究所訪問」（研修訪問）を実施し、各園・各学校の取組状況を把握し、指導助言を行うことができた。
	園、学校における具現状況を把握し、年度毎に見直しを行います。	B	
確かな学力の育成	小学校1校、中学校1校を研究指定校として指定し、実践研究を充実します。	A	・各小・中学校の研究指定校においては、子どもの姿で研究実践の成果を発表することができた。 ・「授業クオリティ7」については、訪問の際に見届け、市内の学校に成果を広めることができた。 ・「ALT派遣事業」や「小学校外国語講師派遣事業」については、学校の要望に応じて派遣することができた。 ・学校支援員を配置し、児童生徒の学習の支援を行うことができた。今後はさらに学校の現状に合わせた配置が課題である。
	「授業クオリティ7」に取り組み、学習や授業の質を高め確かな学力を育みます。	B	
	「ALT派遣事業」、「小学校外国語講師派遣事業」により外国語に親しませコミュニケーション能力を高めます。	B	
	「きめ細かな学校支援事業」により複式学級解消や特に支援を要する児童生徒への支援を充実させます。	A	
道徳教育の充実	「地域ぐるみの道徳教育推進事業」によって中学校区単位の取り組みを行うと共に、道徳の授業を充実します。	B	・中学校区を単位に道徳教育計画訪問を実施し、道徳の時間のねらいを明確にするとともに、子どもの心に響く魅力的な教材を選定し、道徳の時間の指導の充実が進められた。
	「1家庭1ボランティア活動」で具体的活動を確立します。	B	・家庭・地域社会と連携し、ふるさと教育、「1家庭1ボランティア」に取り組むなど、豊かな体験を通して児童生徒の道徳性を引き続き育てていくこと。
人権教育の推進	各幼稚園、小・中学校において「ひびきあいの日」の取り組みをします。	A	・各小・中学校において「ひびきあいの日」の取り組みが工夫されて実践されている。 ・ひびきあい賞を5年間継続して受賞した鶴里小学校の功績が認められ、「人権あふれる学校賞」に選ばれた。
	講演会等、教員の研修を実施します。	B	・年2回の人権教育主任研をはじめ、人権教育講演会等、人権に関わる研修を実施することができた。
特別支援教育の充実	就学前からの一貫した特別支援教育を推進します。	B	・土岐市特別支援教育連携協議会が中心となり、特別な支援を要する園児の実態把握や巡回相談を充実させる中で、一人一人に適した教育支援ができるような体制づくりを進められた。
	必要に応じて発達障がいのある児童生徒に対して支援員を配置します。	B	・特別な支援を要する児童・生徒の実態把握を大切にし、支援員を配置する。
	特別支援学級、通級指導教室の指導を充実します。	A	・特別支援コーディネーターや通級指導教室指導員が中心となり研修会等を進める中で、指導者としての資質を向上させるとともに校内の特別支援教育に対する理解を今後も深める。
健康・体力づくりの推進	体力状況調査結果等をいかした指導を行います。	B	・全国的な状況との関係において子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図っている。
食育の推進	校内食育推進委員会を設置し指導体制を整備します。	B	・校内食育推進委員会が中心となり、児童生徒による食育に関する啓発活動の推進等を充実させ、食に対する理解を深めることができています。
	栄養教諭のリーダーシップのもと、食育指導を充実します。	A	・栄養教諭が1名増員となり、年間を通して各小中学校の各学級1回は食育指導をするよう取り組む中で、食育の大切さについての指導の充実が図られている。 ・土岐市学校給食センターにおける食物アレルギー対応食の実施を機会に食育に対する関心をより一層高めていく。

環境教育の推進	副教材や教師用手引書（岐阜県版）を活用して指導を行います。	B	・３・４年生の社会科で、副読本「わたしたちの土岐市」を活用し、地域について学習指導をしている。来年度、改訂作業を実施し、新しいデータに基づいた指導ができるように進める。 ・また、土岐の町を支え発展させた地域の方や、土岐の文化財をまとめた「土岐のあかり」を発刊した。各小中学校や市立図書館等に置き、過去の土岐の文化を知ることを通してふるさとを生きる人材の育成を図った。
キャリア教育の推進	勤労観・職業観をはぐくむよう日常活動や体験活動の指導を行います。	B	・日常活動の中で、掃除や係の仕事に取り組むことの意味や大切さなど伝える中で、勤労観や職業についての心を育むことができている。 ・「中学校キャリア教育推進事業」を生かし、望ましい勤労観・職業観、職業に対す知識や技能を身につけるきっかけづくりとなる職場体験学習や生き方教室などの体験活動の充実を継続的に図る。
	「中学校キャリア教育推進事業」を実施します。	B	
体験活動・読書活動等の推進	「はつらつ人材派遣事業」により、地域講師の活用を推進します。	A	・「はつらつ人材バンク」活用事業では、計画的かつ有効に活用され、特色ある活動づくりの活動が工夫され実施されている。 ・「読書感想文コンクール」等を通じて、読書指導をさらに充実する。
	「小・中学校特色ある活動づくり」事業を実施し、特色ある教育活動を推進します。	A	
	「読書感想文コンクール」を実施すると共に、読書指導の充実を図ります。	B	
いじめ、暴力行為、不登校等に対する取組の推進	スクールカウンセラー、スクール相談員を配置します。	A	・スクールカウンセラー等各学校の状況に応じた配置ができてきた。 中学校区に１人を基本とした県のスクールカウンセラー市内３校に市費のスクール相談員 各小中学校に市費の教育相談員 ・市の適応指導教室（浅野教室）を運営し、不登校児童生徒への対応や保護者の教育相談を行っている。 ・市のカウンセラー（浅野教室）を引き続き配置できている。
	「教育相談員設置事業」「学校内適応指導教室設置事業」により教育相談員を配置し教育相談の充実を図ります。	A	
	「教育相談適応指導教室」の運営、指導の充実を図ります。	B	
校種間の連携	幼稚園と小学校の交流をし相互理解を深めると共に、義務教育へのスムーズな導入を図ります。	A	・接続カリキュラムの作成等幼稚園と小学校の連携が充実してきた。 ・今後は、小学校と中学校の校種間の連携も強め、小１プロブレムや中１ギャップを解消するよう進めていく。
	小学校と中学校の交流をし中１ギャップの解消を図ると共に、道徳教育その他において効果的な指導を行います。	B	
表彰、顕彰活動	「教育文化賞」により優れた成績をおさめた児童生徒を表彰し励まします。	A	・平成２６年度は、教育文化賞の文化賞、スポーツ賞を１６名の児童生徒と二つの団体に授与することができた。 ・平成２６年度は、「ほほえみレター」を中学校へ５通送り、生徒の善行を讃えた。さらに多くの学校に送り、児童生徒の善行を奨励していくよう努める。
	「ほほえみレター」により善行を顕彰し善行を奨励します。	B	

２ 学びに打ち込める教育環境を整えます			
施策	内容	評価	実績または今後の課題
教育施設の耐震化等の安全・安心な施設環境の構築	避難場所としての役割も果たす教育施設の耐震化を推進します。	A	・平成２６年度までの継続事業として、濃南小学校新設（鶴里小学校と曾木小学校との統合）や、駄知小学校及び泉中学校校舎耐震大規模改修を完了した。平成２６年、２７年度の継続事業の東西小学校耐震化工事が完了すると市内の小中学校の耐震化が完了する。 ・今後は、耐震基準は達しているものの、老朽化が進んでいる校舎棟の長寿命化のための工事を進めていく。
	バリアフリー化、アスベスト対策等を講じます。	B	
	施設の老朽化対策としての大規模な改修を含む施設環境の整備を推進します。	A	
地域ボランティア等の連携による学校内外の安全確保	学校や通学路等において子どもたちが安全に過ごせるよう、学校・警察・地域・「子ども１１０番の家」などの防犯ボランティアと一体となった体制作りを講じます。	B	・「子ども１１０番の家」だけでなく、登下校の見守りが日常的に行われるようになってきている。 ・スクールガードリーダーのパトロールにより、学校内外の安全が高まっている。 ・小学生の下校時に合わせて、総務課と教育委員会が週１回青色防犯パトロールを実施している。
学校環境の整備	学校図書館の蔵書を充実します。	B	・図書標準は満たしている。 ・読書や調べ学習に活用出来るよう、バランスのよい蔵書を進めている。 ・デジタル教科書を平成２７年度に予算化した。
	教材教具を計画的に整備をし、時代に対応した学習環境をつくります。	B	
学校の情報化の推進	教育用コンピューター、校内ＬＡＮなどＩＣＴ環境の整備を推進します。	A	・小中学校のパソコン教室用パソコン機器の更新は平成２５年度に完了した。 ・今後は、平成２１年度に導入した業務用サーバー等のＩＣＴ機器の財政負担の少ない更新方法を検討する。

3 教員の資質・指導力を高めます

施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
校内研究の充実	幼稚園1園、小学校1校、中学校1校を研究指定校（園）として指定し、実践研究を充実します。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校の下石小学校では算数の研究を3年間積み上げ、着実に子どもたちに力を付けることができた。西陵中学校では、週末からの授業改善を研究のテーマにし、教師の指導力を高めることができた。 ・研究指定校の幼・小・中学校に対して研修訪問を実施し、研究に対して指導助言を行った。指定校以外の学校にも、要請があれば訪問し、指導助言を行うことができた。
	研修訪問を実施し、各学校の校内研究に対して指導助言を行い校内研究の質を高めます。	A	
	「専任講師派遣事業」により学校に大学教授等を派遣し、校内研究において専門性の高い指導助言が得られるようにします。		
	授業に関する相談に応じ授業の質を高めます。	B	
研修事業の充実	「研究主任会（学校所員会）」、「各種主任研修会」、「サマーセミナー」を実施します。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に従って担当者の会を実施することができた。 ・教務主任会において学力向上の取組を共通理解し、各校でリードしていけるよう計画、準備を進める必要がある。 ・情報教育主任研を中心に情報モラルについての授業を仕組むことができています。さらにアンケート調査などを通して実態にあった指導ができるよう研修に取り入れていく必要がある。 ・年4回の市初任者研修を実施できた。地域理解や危機管理の研修をさらに充実させていく。 ・2年目研修では、各校に訪問し研究授業を参観し、指導・助言を行ってきた。 ・学力向上推進委員会を立ち上げることができた。PDCAサイクルが機能できるように研修を計画し実施していく。 ・実践論文については、33人の応募があった。さらに内容が充実していくように各校への指導を充実させていく。 ・教育研究会には、適切な指導者を派遣することで授業研究の充実を図ってきた。
	「初任者研修」、「2年目研修」を実施します。	B	
	「嘱託研修員会」を月3回実施し授業力のある教員を育てます。	A	
	「教育実践論文」を募集し、優れた実践研究を顕彰します。	B	
	「土岐市幼稚園教育研究会」「土岐市小中学校教育研究会」を支援し授業研究を通して教員の実践力を高めます。	B	
広報活動の充実	「教育とき」を発行し教職員に教育・指導に関する情報を提供します。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な教育観や教育活動を知ることできるよう紙面を工夫している。更に執筆者や内容を精選していく。また、画像などが鮮明にできる予算などの確保も課題である。

4 家庭の教育力を高めます

施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
子育て支援の充実	3歳児未満の親子を対象に、「乳幼児学級」「乳幼児音楽教室」を実施します。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・あすなろ乳幼児学級については好評によりダイジェスト版を加えニーズに応えることができた。 ・乳幼児音楽教室では、年間実施回数や地域も考え、より多くの方に好評の中、実施することができた。今後、回数や実施内容について検討を加えていきたい。 例年と同じような形で実施している。返信はがきの内容から、子育ての参考になっているので今後も継続して行っていきたい。 今年度も入学説明会の中で「子育て講座」を実施している場合が多い。より多くの保護者に聞いてもらえる機会としては大変有効であるが、時間の有効活用、内容面でより充実していくよう県の動向等も踏まえ声掛けを行っていきたい。 テーマに沿った研修会や交流会ができた。また、今日の課題であるインターネット(スマホ)に関する研修も各校で進めてもらい、知識を深めてもらうことができた。幼・小・中の連携した研修も取り入れた。来年度はさらにインターネット(スマホ)に関する実態調査、チラシの検討等を通して意識化を図ると共に、呼び掛け等の実践に取り組めるよう援助していきたい。 対象企業の意向を受けながら、2回であったが講座を実施することができた。1回目は、安全大会の場を利用し多くの方に参加してもらうことができた。課題として、一つの企業で3回の講座を開催する必要性があるのか検討していきたい。
	3歳児未満の親を対象に、「あすなろ家庭通信学級」「同スクーリング」を実施します。	B	
	小学生の親を対象に、「子育て講座」を実施します。	B	
	幼稚園、小・中学校の保護者を対象に「家庭教育学級」を実施します。	A	
	幼・小・中PTA母親委員を対象に「家庭教育交流集会」を実施します。	A	
	父親を対象に「職場で学ぶ家庭教育理解講座」を実施します。	B	
PTA活動への支援の充実	市PTA連合会の活動に対し助言や支援をします。	A	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会の際に交流会を実施することで、単位PTAでの悩みや問題について情報交流をすることができた。今年度は、研究大会や交流会を通して防災教育について学び、また、予算化をして重点的に取り組むことができた。情報交流を生かし、市をあげての自主的な取り組みが実践できるよう支援していきたい。
家族の絆を深める取り組みの充実	小学生とその保護者を対象に、「ホリデーがくえん」を実施します。	B	<ul style="list-style-type: none"> 木工教室の参加者は減少したが、体験を通じて親子でふれあえる貴重な機会であり、新しい試みを加えながら実施していきたい。 コンクールに向けて小学生が一生懸命取り組む姿は大変好評。速だけでなく、正確な速さを身につけることができるよう改善していきたい。
	小学生を対象に、「生活技能コンクール」を実施します。	A	
家庭の実践力の向上	「家庭教育アクション7ー子どもを幸せにする7つの言葉ー」に取り組み、家庭教育の実践力を高めます。	C	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育アクション7を意識して取り組んでもらえるような指導・助言が弱かった。来年度は「家庭教育トリプルアクション」について話し合い、年間を通して一つずつ重点をおいて取り組めるように導いていきたい。

5 地域の教育力を高めます

施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
人権同和教育の推進	各種団体を対象に、人権感覚を高める研修会を実施します。	B	計画していた研修会以外の研修を持つことができなかった。少しでも周知できる機会を増やしていきたい。
青少年の健全育成の推進	市子ども連合会の活動に対して助言します。	A	インリーダー研修会を通じて子ども会のインリーダー養成に尽力し、また、各町での総会や研修会に積極的に加わった。子どもの健やかな成長に貢献するため、今後も協力して活動に励みたい。
	ジュニアリーダーを育てます。	B	ジュニアリーダーの数が減少し、活動の幅が狭くなっている。数の確保も大事だが、質の向上に向けた研修会を実施していきたい。
	青少年育成市民会議の活動を推進し、各町青少年育成会の活動を高めます。	B	市民会議では青少年の主張大会を実施し、現代の若者が考える率直な意見を大勢の市民の方に聞いていただいた。
	青少年育成推進員の研修会を実施します。	A	各町の青少年育成推進員の交流を活性化させ、お互いの良いところや悪いところを検討し合う機会を多く設けた。
	社会教育委員の研修会を実施します。	A	社会教育委員の会では、テーマをもとに数少ない情報交換の場を有意義に利用し、調査・研究を進めることができた。その成果として、地域で活躍する中学生ボランティアが少しずつ増え、育ってきている。また、今年度は、研修会での発表や様々な研修の機会を利用して一人一人が学ぶことができた。来年度は、後期：夢・絆プランの内容を理解し周知できるように取り組んでいく。
子どもたちの安全・安心な環境づくり	成人式を実施します。	B	新成人実行委員会（新成人代表）の司会、進行による式典を開催した。
	異年齢交流と体験学習等を目的とした「放課後子ども教室」を実施します。	B	放課後教室の室長会、指導員研修を実施し、内容の充実に努めた。
	「子ども110番の家」を増やします。	B	子ども110番の家やスクールガードリーダーの活躍を広報等を通じて広く周知することで、家庭・地域・学校などとの連絡・連携をより一層緊密にしたい。
	「スクールガードリーダー」を実施します。	B	
	下校放送を実施します。	B	今年度から、月曜日が振替休業日となる地区の放送を火曜日に振り替えて放送することを無くした。（火曜日は、15:00頃児童が一斉に下校しないため）
地域の実践力の向上	立入り調査を実施し、青少年を有害図書等から守ります。	B	立入調査は、県と共同して今後も実施したい。
	「地域教育アクション7ー地域を高める7つのカギー」に取り組み、地域の実践力を高めます。	C	アクション7の内容は大切にしているが、意識して呼びかけることができなかった。来年度からは「地域教育トリプルアクション」を意識し、年度ごとに重点的に呼びかけていきたい。

6 地域づくり型生涯学習を推進します

施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
生涯学習体制・指導者の充実	中央公民館体制を充実します。	B	公民館運営審議会からの意見を尊重し、中央公民館講座の充実を図った。中央公民館としての在り方をさらに検討していく必要がある。
	中央公民館と各地区公民館とのネットワークを構築します。	A	主事会を充実させることができ、ネットワークを強化できた。さらに強固なネットワークの構築を目指していく。
	各公民館の講座の活動を通して、指導者を育成します。	B	自主講座活性化事業を実施し、各公民館の講座を充実させることができた。しかし、指導者の育成までには至っていないため、さらなる工夫が必要。
公民館講座の充実	市民の学習ニーズを把握し、学びの場を提供します。	A	自主講座活性化事業を実施し、各公民館の講座を充実させることができた。今後もさらに充実させていく。
	専門的知識を有する大学教授陣による「市民大学講座」を実施します。	B	市民大学講座を全4回実施したが、参加者は減少傾向。講座の内容と参加者ニーズがあっていないのが一因であるが、名古屋大学への講師依頼の関係で調整は難しい。今後は他大学からの講師招致も検討課題。
	特色ある公民館活動の充実を図ります。	A	各館それぞれのコンセプトを踏まえた講座を展開できた。今後はこれまでの流れのほかに、さらなる方向性を考えて事業を実施していきたい。
地域づくり活動の充実	地域住民相互の絆を深める公民館祭などの充実を図ります。	A	地域住民を巻き込んだ特色ある公民館まつりを開催できた。マンネリ化しないよう、内容変更等を図っていく必要もある。
	自然保護や環境保護等に携わる地域のボランティア活動や、町民会議や公民館行事等に参加協力する中学生のボランティア活動を推進します。	B	中学生ボランティア以外にも、公民館活動を支えるボランティアの活動も活発化してきている。中学生には今後さらに呼びかけをしていきたい。
図書館の充実	市民に対して読書活動の啓発をします。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だより（毎月発行）、広報とき15日号「読書の小径」、図書館HPの他に、新たに平成26年度より、図書館ツイッター、広報とき図書館特集「図書館へ行こう」で利用案内や各種イベントを紹介した。 ・一般利用図書、学校共用図書及び視聴覚資料を計画的に収集した。 ・子どもの読書活動の推進を図るため、曾木小で「読み聞かせ会」を開催。また、絵本コーナーに「25歳をすぎた絵本（ロングセラー絵本）」コーナーを設置し、本に親しんでもらう環境づくりをした。 ・保健センターにおける月2回の「4か月児健診」で、391組の親子にブックスタートを実施した。 ・岐阜県図書館をはじめとする、県内、県外の公立図書館から相互貸借により939冊の資料を借受け、利用者の要求に応えた。 ・地域文庫の他に放課後教室での配本サービスを開始し、利用者の拡大につなげた。予約図書配本サービスについては、利用者の拡大が課題である。
	広く市民に活用されるよう計画的に図書を収集します。	A	
	土岐市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書活動を推進します。	A	
	4か月児検診時にブックスタートを行い、読書習慣の形成を図ります。	A	
	他県や県内の公立図書館や大学図書館と連携し、多様な資料要求に対応します。	A	
	図書館から遠い地区の利用者のために、予約図書配本サービスと地域文庫サービスを行います。	B	

7 文化芸術活動を振興します			
施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
質の高い芸術文化の提供	文化プラザ自主事業を多様な分野で開催し質の高い文化芸術を提供します。	A	・（公財）土岐市文化振興事業団の事業として実施。 ・自主事業（共催含）として、9事業を開催した。〔分野：クラシック1、Jポップ4、ファミリー2、お笑い（落語）2〕 ・石原進展（日本画）を開催し、会期中交流の場を設け、地域住民と交流を深めてもらった。 ・小学校2校でクラシックのアウトリーチ公演を実施。
	ワークショップや芸術普及活動（アウトリーチ）を行い公演者と地域住民との交流を深めます。	A	
文化芸術活動の支援	美術展、音楽祭、文芸祭を開催し、文化芸術活動発表の場を提供します。	A	・（公財）土岐市文化振興事業団の事業として実施。 ・美術展、音楽祭、文芸祭を開催。前年と比較し、多少の増減はあるものの、概ね前年規模で実施。 ・文化団体連盟祭についても同様。 ・土岐少年少女合唱団や学校の吹奏楽部の講演活動等に対し支援した。（10件）
	文化団体活動を支援し、文化団体連盟祭を開催します。	A	
	青少年の文化芸術活動を支援します。	B	
文化財保護の推進	指定文化財の修復や環境整備を行います。	A	・国指定史跡「乙塚古墳附段尻巻古墳」整備計画の策定に着手。 ・国の重要文化財に指定された「元屋敷陶器窯跡出土品」の収納状況を改善するため、整理事業を実施。 ・文化財保護団体に対する、補助金の交付、資材の提供を行い、文化財保護活動を支援。 ・美濃陶磁歴史館の展示案内を14校実施。 ・「土岐のあかり」出版時に文化財の情報を編集し掲載した。（学校授業での活用を目的に教育研究所で作成）
	文化財の調査を行い、必要に応じて新たに指定し保護します。	B	
	文化財保護団体を支援します。	B	
	学校教育と連携を図り、文化財保護意識を高めます。	A	
伝統文化の継承と振興	伝統文化保存団体を支援します。	B	・鶴里小、濃南中で中馬馬子唄の指導を行う伝統文化保存団体等に補助を行った。 ・地域社会の少子高齢化により、指導者や後継者の確保と育成が課題であるとともに、今後映像その他の方法による記録保存等を考えていく必要がある。
	伝統文化保存団体との協働により、青少年が伝統文化に触れる機会を提供します。	B	
郷土資料の収集・整理	郷土の歴史や関連する資料の収集整理を行います。	A	・古文書の整理を引き続き行い、その成果を「土岐市史資料研究ⅩⅢ」として刊行。 ・皆木小学校保管の古文書を収集した。
織部の里構想の推進と利用の促進	織部の里公園の整備を推進します。	A	・（公財）土岐市文化振興事業団の事業として実施。 ・公園用地（一部）を買収し植栽工事を行った。 ・史跡元屋敷陶器窯跡の見学、「創陶園」における作陶体験、織部茶会や暮雪庵茶会を通して多くの方に来園いただけた。 ・窯跡の展示模型を修理した。 ・今後も公園内の老朽化した施設、設備の修繕、植栽等の維持管理を適切に実施する必要がある。
	織部の里公園において作陶体験の場を提供するとともに、地域住民と協働して美濃桃山陶に触れる機会を提供します。	A	
埋蔵文化財保護の推進	遺跡地図を整備し、適切な開発指導を行います。	A	・開発行為等と埋蔵文化財との調整を適切に実施した。（文化財保護法第93条及び第94条の届出中、試掘8件、工事立ち会い16件、本発掘1件） ・埋蔵文化財の調査を（公財）土岐市文化振興事業団へ委託し実施した。
	埋蔵文化財の調査体制を維持します。	A	
収蔵品の有効活用	市の保有する収蔵品を公開します。	A	・収蔵品展を5月の土岐美濃焼まつりに合わせて実施するとともに、新たに古陶器（2点）、現代茶陶展の優秀作品（3点）、近代の陶磁資料（13組39点）及び陶芸協会優秀作品（1点）を収集した。 ・収蔵品を適切な環境で保管する施設の整備が課題である。また、郷土の歴史を体感できる資料を、展示以外で活用する手法を開発する必要がある。 ・セラテクノ土岐にて、地域住民と連携し、近代陶磁史関係の展示を行った。 ・土岐美濃焼まつりにおいて、収蔵品の展示を行った。
	文化芸術品や美濃焼陶磁資料を収集・整理し、充実を図ります。	A	
	学校や地域住民と連携して、収蔵品の貸出や展示を行い、地域の歴史や文化に触れる機会を提供します。	B	
美濃陶磁歴史館事業の推進	美濃焼とその歴史に関する特別展・企画展を開催します。	A	・（公財）土岐市文化振興事業団の事業として特別展2回、その他企画展を2回実施した。 ・講演会「文化財を護る ー地域活性化に向けてー」を実施したほか、小学生を対象とした体験講座「"ロクロ"と"タタラ" でおりの血をつくろう!」を実施した。 ・施設や設備の老朽化により、資料の展示や保管に支障があるため、施設の新設も含めた対応が必要。 ・土岐市をカンコウする会と協働で古墳めぐりを開催した。 ・地域住民と協働で史跡めぐりを開催した。
	郷土の歴史・文化に関する講演会・講座を開催します。	A	
	地域住民と協働で、子どもや親子を対象に、郷土の歴史・文化に関する講座を開催します。	A	
やきもの文化の振興と情報発信	やきもの文化を広く情報発信する催事を開催します。	A	・（公財）土岐市文化振興事業団の事業として実施した。 ・織部の日事業を開催し、ポスター・チラシ等で情報発信した。 ・織部の日事業として、公募作陶展（第8回現代茶陶展）を開催し、公募・審査を行った。（展示は次年度）。 ・一部の作品について陶彫作品周辺の草刈りを行った。 ・子供の作陶作品は、市内の保育園、幼稚園、小・中学校を対象とした「土岐市美術展幼少年部」で発表の場を提供した。
	公募による作陶展を開催します。	A	
	陶彫作品の維持・管理を行います。	B	
	子どもの作陶の発表の場を提供します。	A	

8 スポーツを振興します

施 策	内 容	評価	実績または今後の課題
市体育協会の活動支援と連携強化	市体育協会、加盟競技団体、町体育協会が開催するスポーツ教室や大会などを支援し、各団体の自立を促進します。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全28種目にわたる市民総合体育大会に多数の市民の参加があり、競技スポーツの強化、普及を図ることができた。 ・市体育協会や加盟競技団体については、競技志向性が強いことから、今後は市民総合体育大会の競技種目にも更なる参加者を増やすために生涯スポーツの種目を増やし、競技スポーツ・生涯スポーツ活動の両面における成果を競う大会とする必要がある。 ・土岐市体育協会に土岐市ボーリング協会が新たに加盟し、市総体の活性化に繋げる環境ができた。 ・今後は市総体を通じてスポーツを行う子どもの裾野を広げ、ジュニアの育成に繋げるような運営を目指す。
	「市民総合体育大会」の充実を図り、市体育協会を活性化させます。	A	
	市体育協会を通して「東濃総合体育大会」「県民スポーツ大会」に出場し、本市の競技力を向上させます。	A	
総合型地域スポーツクラブの設立育成支援	「総合型地域スポーツクラブ育成事業」を実施し、総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成を行います。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブ育成に関しては、既存のクラブの活動を団員が減少しているスポーツ少年団活動とリンクさせ、やがてはスポーツ少年団活動が総合型スポーツクラブとしても活動できるように支援して行く。 ・土岐市スポーツセンターを既存の総合型地域スポーツクラブの活動場所とし、全戸回覧で土岐市の児童を対象に会員を募集しスポーツを行った。
	既存の総合型地域スポーツクラブと協働してスポーツの振興を推進します。	A	
指導体制の充実	体育協会をはじめとするスポーツ団体の自立を促し、適切な指導体制を確立します。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度の高い講師を依頼して指導者講習会を開催したことで、スポーツ推進委員のレベルの向上や指導者養成講座の参加者の増加に繋がった。 ・夏休み期間中に小学生を対象にスポンジテニス教室を行い、スポンジテニス大会を盛大に開催することができた。 また、新たな事業としてスキー教室も開催しスポーツをする場を提供した。指導者研修会にスポーツ少年団・クラブチームの指導者、及び小中学校の先生に参加していただき指導者の育成を図った。 ・体育協会加盟団体の指導者体制に変化がないことから、今後はスポーツ推進委員会を中心とし、各種スポーツ団体に対し積極的な参加の働きかけが重要となる。
	体育指導委員のレベルアップと、登録・認定制度の導入によって指導者を確保します。	A	
	「指導者養成講座」により優れた指導者を育成します。	B	
スポーツ、レクリエーションの普及	どこでもだれでも行える軽スポーツをはじめとする各種スポーツを普及させます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・軽スポーツ教室等の行事を、広報・HPで市民に周知し、スポーツをする場を提供した。 ・スポーツフェスティバルの内容を検討し、土岐市体育協会・スポーツ推進委員・レクリエーション協会の協力により誰もが楽しめるイベントを開催し多くの市民が参加し、三世代が交流するイベントを成功させることができた。また、森林ウオーキングも参加者が増え、高齢者の割合が高いが、50歳以下の参加者も増えてきている。 ・ロードレース大会は前年より参加者が減ったが、1歳の幼児から78歳の高齢者まで総勢450名が参加し、事故なく実施することができた。一周駅伝については、企業・学校等へ参加依頼をし36チームに参加していただいた。チームによりタイムに差があり繰り上げ件数が増えたが公道を走るためやむを得ない。
	「スポーツフェスティバル」を実施し、軽スポーツを通して、高齢者から若年層まで、三世代が交流できる機会を提供します。	B	
	スポーツ活動への若年層の参加を促すシステムを構築します。	B	
	「ロードレース大会」「市一周駅伝大会」を幅広い層からの参加を促し活性化させます。	A	
スポーツ交流の推進	「土岐市・焼津市スポーツ姉妹都市交流」を実施し、スポーツ少年団、中学生（中学校体育連盟）、一般の競技団体による交流事業を推進するとともに自主交流を促し、交流事業を活性化させます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスポーツ関連行事が行われる中、事業計画どおりの交流事業を開催した。姉妹都市の目的であるスポーツ交流を通じた振興を図ることができた。 しかし、交流を行う競技が固定化していることから事務局同士で今後の交流の内容を検討した。 ・近年の少子化により、スポーツ少年団の団員数が減少しており、土岐市の交流種目が野球と空手に限定しているため、レクリエーションや軽スポーツ、文化の交流を行った。
	近隣市、他都市とのスポーツ交流について検討を進めます。	B	
地域における身近なスポーツ環境の整備	既存の体育関連施設の計画的な改修・整備を進めます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中において、優先順位をつけることにより緊急性の高い施設修繕を行うことができた。 ・体育関連施設は、どれも老朽化が目立っているが予算の問題もあり、緊急的な修繕で賄っている。大規模改修を視野に入れ、利用者の受益者負担を明確にし、施設整備に見合った料金の見直しを検討する必要がある。
	スポーツ関係団体のニーズを把握し「学校開放事業」により小中学校の体育館などの利用を促進します。	A	
	各体育関連施設の使用申請手続きや使用料について利用者の目線で評価を行い、より効率的で妥当なものに改善します。	B	

学識経験者の意見（総評）

岐阜聖徳学園大学 教授 柏 木 良 明

平成26年度の「教育委員会に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書（平成26年度実績）」及び資料の数々を検討させていただく機会を引き続き得たことに感謝している。特に、平成22年度に策定された土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」をベースにした教育委員会の「点検及び評価」活動は、貴市が掲げている『強いまちづくり』、『元気なまちづくり』、『優しいまちづくり』に迫るべく、年々着実に事業が推進されている。こうした営みが、「夢を持ち人との絆の中で育ち合うひたむきな人」という貴市が目指す人間像に迫ることに繋がると捉えている。

そこで、10年計画の半ばとなる今年度までの見直しを行い、新たに後半の実践に繋がられるよう、特筆される成果や課題について触れたい。

1 「豊かな心と確かな学力を身に付けた健やかな子どもを育てます」について

学習指導要領に基づいた教育実践が本格化し、貴市では一昨年まで3年間唯一「C」評価となっていた「幼保一体型施設の適正配置」について検討が加えられつつある。特に、国の「子ども・子育て関連3法」を受け、認定子ども園の整備に努められたり、「子ども・子育て支援事業計画」が策定されたりと、具体的な合意形成を目指していることは、高く評価される。まさに長年の課題であった幼児期からの教育の充実が、市の大きな目玉事業となる予感がする。

教育指導については「方針と重点」に基づき、確かな方向性をもち、粘り強い取組が市全体で行われ、着実に実践されていることが伺われる。特に、各校が重点となる内容項目を3点に具体的に絞り込み、職員が一丸となって取り組む姿は、子どもたちへの背中での教育となりうる。こうした市教育委員会と学校が手を携え合い、継続的に取り組むことをさらに続けていただきたい。

先の「方針と重点」でも大切にされている「学校訪問」を初めとして、子どもの確かな学力を育成するために研究校を指定したり、きめ細かな学校支援に努めたりすることが振興計画の実施と同時に継続的に営まれている。これが、市民集会「夢と絆のつどい」に結実していき、市の基盤となる教育行政が確かな方向性をもって行われている証であろう。

各学校において道徳授業の充実や「ひびきあいの日」が継続的に実践されていることは、高く評価される。こうした一人一人を大切にする教育の積み上げに加え、指導する立場の教員自身が研ぎ澄まされた人権感覚を磨く研修会が積極的に実践されていることは、人権教育を推進する大きな原動力となる。昨今、マスコミ報道されることが多い「いじめ・暴力・不登校」など、寂しい思いをする子どもが一人もいない『優しいまちづくり』が展開されることを強く願う。

発達障がい傾向を現す子どもの数が多くなっている現状から、支援員を配置することが喫緊の課題として求められている。先の人権教育の推進と相俟って、粘り強く、しかも継続的な取組が求められる。また、日々対応に応じている学校側からは、その要望は高まるばかりであろう。現に、岐阜県の「平成27年度小・中学校教育指導の方針と重点」でも、子ども一人一人に社会性や豊かな人間性を育む点に加え、新たに生きる力を身に付ける指導を求めている。そのため、財政面の裏付けが必要となるだけに、行政内部の早急な対応に鋭意努力されたい。

食育の推進については、栄養教諭の増員や食物アレルギー対応食の実施など、眼に見える成果があり、すべての小中学校で対応食を実施できることは、特筆される。子ども一人一人を大事にするとともに、ひいては『元気なまちづくり』に結び付くと捉える。土岐市教育の特徴として、大きくアピールしたいことがらである。

キャリア教育の推進については、小・中学校を通じた系統的・継続的な取組を掲げ、日常生活の中で望ましい勤労観・職業観や知識や技能を身につける契機づくりを意図的・計画的に推進していることは、大切なことである。今後も引き続き取り組まれることを期待したい。

貴市で推進されてきた「はつらつ人材バンク」が活用され、各学校が地域社会と一体となって「特色ある学校づくり」を推進しつつある。この取組を推進することが、ひいては子ども一人一人を鍛え、輝かせることに結びついていくと捉えられる。市の大切な取組として、今後も継続されることを望みたい。

いじめ・暴力・不登校などへの対応を綿密に進めるため、スクールカウンセラーやスクール相談員を配置し、学校の実状を斟酌した対応をしていることは高く評価できる。また、幼稚園と小学校、小学校と中学校との連携を深めようとする試みが長年に渡ってなされていることは、先の「人権教育の推進」でも触れたが、子ども一人一人を大切にすることで『優しいまちづくり』に結び付いていくと捉える。

継続的に「教育文化賞」として個人や各種団体を表彰する活動が実施されている。その名誉を受けた子どもは、きっと市の中核に成長し「土岐市の宝」となる時期が来るはずである。そんな将来を願って、地道な取組を期待したい。

2 「学びに打ち込める教育環境を整えます」について

耐震化工事が計画的に進められ、子どもの安全・安心を確保するため、平成27年度の100%達成が待たれる。また、今後新たに老朽化対策も念頭にいれ、取り組んでいこうとすることは、保護者だけでなく市民からの信頼を獲得するものとなる。

自然災害に対応する際、避難場所の施設となる学校は、市が掲げている『強いまちづくり』に繋がるため、積極的・計画的に環境整備に努めていただきたい。

基盤となるパソコン機器の更新は完了したが、更なるハード面の整備は急務である。子どもが現代社会を生き抜く力を身に付けていくためにも、まず情報化のハード面の整備は必要となる。次年度以降、「デジタル教科書」という新しいICT環境の整備が挙げられていることは、大いに評価される。

3 「教員の資質・指導力を高めます」について

教員の資質や指導力を向上させることは、学校教育を高めるための大きな要因であることは言うまでもない。その施策として貴市では、「校内研究の充実」と「研修事業の充実」、さらに情報提供である「広報活動の充実」を掲げている。

教員の資質や指導力を向上させる上で一番効果的なものは、日常の教育実践現場で行う研修である。その点貴市では、教育委員会が研究指定校をはじめ多くの学校へ「研修訪問」し、校内研究に対して指導助言をしたり、授業に関わる指導法等の質問に応じたりするなど、「校内研究の充実」のために学校への指導援助を積極的に行っておられることは教員の資質や指導力の向上という点から大変意味のある有効な施策と考える。さらに、研究指定校(園)を設け、その取組の成

果を公表することにより、指定校及び指定校以外の教員の資質や指導力の向上が見られることは、さらにはそのことが貴市の教育の発展に寄与できていることは、その施策の意義深さを感じるところである。

「研修事業の充実」については、貴市として「研究主任会」「各種主任研修会」「サマーセミナー」などを計画的に位置づけ、教員の資質や指導力の向上を目指していることについて評価したい。近年、若い教員が増加していることから、「初任者研修」「2年目研修」が位置付いていることも評価できる。願わくば、2校目で貴市に戻ってくる4年目5年目の教員、つまり将来貴市の教育を背負っていく教員に対する研修を位置づけることも意識したいところである。また、学力向上委員会を立ち上げられたことは、教員の指導力向上のうえでも大きな影響を与えるものと期待している。

教育実践論文については、33名の応募があったようだが、教員の実践意欲の表れであると思えたい。そして、それは貴市の施策「校内研究」及び「研修事業」の成果と捉えたい。

教育現場は、いろいろな意味で多忙である。そんな中で教育に関する新しい情報や先進的な教育実践などの情報を入手することがなかなかできないところであるが、貴市では教員が求めているだろう情報を積極的に広報していることは、大変意味ある取組である。この意味から、貴市の施策の一つである「広報活動の充実」は大変評価できる。

4 「家庭の教育力を高めます」について

家庭を取り巻く環境の急速な変化に併せ、家庭の教育力の低下が懸念されている。親の子育て不安、自信のなさ、過保護や過干渉、放任、虐待など、さまざまな問題が生じている。それらの問題の解決を家庭に責任を委ねるのではなく、社会全体の問題として家庭の教育力を図っていくことが求められている。

貴市では、こうした社会的状況を踏まえ、子育て支援の充実を図るために、3歳児未満の親子を対象にした「乳幼児学級」「乳幼児音楽教室」や、幼稚園、小・中学校の子どもたちの保護者を対象にした「家庭教育学級」「家庭教育交流集会」などが計画的に実施されている。年々参加者も増え、昨年度は大変好評を得たようである。これは各講座・教室の内容の充実とともに貴教育委員会の工夫あるPRが影響したと思われる。すばらしいことである。また、父親の子育てに対する理解を深めるための父親向けを対象にした「職場で学ぶ家庭教育理解講座」は、極めて創造的で画期的な取組であるとともに、父親の子育てへの参加意識をさらに高め、父親の家庭における教育力の向上を図る意味において高く評価したい。「平成25年度実績または今後の課題」に本事業を更に拡大しようと模索されようとしていることに期待したい。

「子育て支援の充実」の施策における各講座・教室が一層ニーズに合った充実した内容になるように、また希望する多くの市民が参加できる或いは参加しやすい環境となるように取組んでいただくことを期待したい。

家族の絆を深めることを目的とした「ホリデーがくえん」や「生活技能コンクール」も大変好評を得ているようである。小学生が保護者とともに活動できる場であることに意義があり、よい試行だと考える。常に新たな課題を持って取組んでいただければ一層充実・発展した事業になると信じる。家庭の実践力の向上を目指した「家庭教育アクション7」については、マンネリ化した内容にならないようにするために工夫した「家庭教育トリプルアクション」の27年度からの取組に期待したい。

5 「地域の教育力を高めます」について

社会が急激に変化する中で、人々のライフスタイルの変化、人間関係のつながりや地域における連帯意識の希薄化等を背景に、子どもたちを取り巻く様々な問題が指摘されている。実体験の不足や基本的な生活習慣の未定着、倫理観や規範意識の低下、さらには、子どもたちの安全を脅かす事案の発生などの諸問題に対し、大人の意識の改善、地域の教育力の向上は重要性を増している。

貴市においては、子どもたちを健全に育成するために地域の教育力を高め、地域ぐるみで学校を支援し子どもたちを育む活動を推進するという願いのもと、意図的・継続的に施策が展開されており、その成果が着実に積み上げられている。特に、青少年の健全育成のために各町の青少年育成推進員の交流を活発化させ、互いに学び合う場を多く設定し、意識の改善や実践力の向上に努めたり、子ども会のインリーダー養成や中学生ボランティアの参加意識の向上に尽力したりしている。こうした取組は、大人と子どもが関わり合い、つながりをつくり、共に地域づくりに積極的にかかわっていく土壌づくりを促進し、将来貴市を担っていく人材育成にも寄与していくものと考えられる。今後の取組にさらなる創意工夫を加え、一層の成果が累積されることを期待したい。

地域の実践力の向上を願った「地域教育アクション7ー地域を高める7つのカギー」の取組については、具体的行動の柱を7つ設定して実践の充実を標榜しているものの、その周知や見届け、成果の共有化等、実践化のプロセスが十分に機能していない面があると思われる。内容項目について、市民の合い言葉として一層親しみやすく、実践意欲を高め、成果を実感できるなどの観点から見直し、PDCAをより機能させながら実践の渦をつくりだしていこうとする「地域教育トリプルアクション」の27年度からの取組に期待したい。

6 「地域づくり型生涯学習を推進します」について

社会の成熟化、高齢化の進展に伴い、生きがいづくりや社会参加による自己実現に対するニーズが高まっている。これからは、個人的生活の充実のための生涯学習の成果を生かしながら、子育て、福祉、環境、まちづくりなど身近な地域における課題の解決を目指し、自己の知識、技術、経験を地域社会に役立て、社会的生活の充実を図ることが求められている。

貴市は、地域づくり型生涯学習の推進に向け、中央公民館と各地区公民館の連携を密にするために主事会を充実させて公民館ネットワークの強化に努めたり、自主講座活性化事業を展開して各公民館講座の充実を図ったりしていることは高く評価したい。そうした取組が、地域住民を巻き込んだ特色ある公民館まっりの開催や公民館活動を支えるボランティアの活動の活発化につながってきていると考えられる。

市民の学びの拠点である図書館の取組については、読書活動の啓発として、図書館だより、広報とき、HPによる各種情報提供に加えて、今年度より、図書館ツイッター、広報とき図書館特集によって利用案内やイベント紹介などを行ったり、放課後教室での配本サービスを開始したりするなど新たな試みがなされていることは大いに評価できる。

市民の学習ニーズは多様化、高度化し、学習への欲求や活動への参加意識も変化する中で、地域づくり型生涯学習に資する支援を行っていくために重要なことは、企画・立案から運営、評価にいたる一連の過程において市民が主体的、積極的に参加していく学習機会の提供を工夫してい

くことである。そうした活動の積み上げにより、市民ニーズに一層応える学びの場が創出され、新たなリーダーの育成、ボランティアの輪の広がり、人のつながり・絆づくりの強化、地域づくりや地域の活性化につながっていくことを期待したい。公民館や図書館が地域の生涯学習拠点としてより機能していくことを期待する。

7 「文化芸術活動を振興します」について

文化芸術は、一人一人の心と生活にゆとりと潤いをもたらし、人と人との相互理解や心のつながりを深めるものである。それは、心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものであり、市民が協働し共生する社会の基盤となっていくものである。次代を担う子どもたちが、本物の文化芸術に直接触れたり、創造活動に参加したりすることにより、多くの感動体験を得て、感受性豊かな人間に成長するよう願っている。

貴市では、質の高い多様な芸術文化の提供を積極的に行い、26年度は文化プラザ自主事業として9事業が開催された。また、市民の文化芸術活動の支援についても、文化団体連盟祭、文化祭、音楽祭等を開催し、市民の文化芸術活動の発表の機会を積極的に設けている。加えて、少年少女合唱団や学校の吹奏楽部の公演活動など、青少年の文化芸術活動の支援を推進したり、ブラスの集いや夢コンサートなどの市民参加型事業を展開したり、小学校に楽団を派遣するアウトリーチ事業を実施したりするなど、文化芸術活動の振興に力を注いでいることは高く評価したい。

地域の伝統文化の継承・振興や郷土資料・埋蔵文化財の保存・収集・整理・活用等は市民のアイデンティティ醸成につながる重要な課題であり、様々な施策を展開している点は評価したい。特に、地域文化の継承者である子どもたちを対象とする取組として、学校と連携し、美濃陶磁歴史館の展示案内を14校で実施したり、伝統文化の一つである中馬馬子唄の指導を学校で行ったり、「ロクロとタタラでおりべの皿をつくる」体験講座を小学生対象に開催したりするなど、地道な取組が行われていることは大いに評価できる。今後さらに、郷土の歴史を体感できる取組をより工夫するなど、地域住民と協働して青少年の地域文化の継承と振興を図っていくことを期待したい。

もとより文化芸術活動は、人間が人間らしく生きるための糧であり、共に生きる社会の基盤を形成し、さらには、質の高い経済活動の創造にもつながっていく大切なものである。貴市の様々な取組が、文化芸術を身近に感じられる環境づくりや市民の自主的かつ創造的な活動の推進、市民の郷土愛の高揚に一層寄与していくものとなるよう期待する。

8 「スポーツを振興します」について

スポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成するものであり、一人一人の心身の健全な発達に必要不可欠なものである。このことから今、市民一人一人がスポーツを生涯にわたり継続的に実践できるよう人的・物的環境の整備や自発的なスポーツ活動への支援の充実が求められている。

貴市のスポーツの振興は、各施策の具現・普及へ向けての努力が成果として表れてきている。市体育協会への活動支援及び市体育協会との連携強化を図ったことが、市民総合体育大会において多くの市民の参加があり、スポーツに対する市民の意識が高くなってきていることの表れと伺える。今後も市民のニーズに沿った誰もが楽しめる大会として位置づけていくことが肝要と思われる。

れる。

また競技スポーツに偏り過ぎない生涯スポーツにも力を入れ、バランスのとれたスポーツ振興にも努めていただきたい。例えば総合型地域スポーツクラブにもそのような目的を持ったスポーツクラブの位置づけをしていくことなどである。

益々進む高齢化社会への対応としての、高齢者から若年層までの三世代が楽しみ交流することをねらいとした「スポーツフェスティバル」、老若男女が参加してのロードレースなどもスポーツやレクリエーションを楽しむ大きな機会であり、運営や内容など一層の改善を図り今後も継続発展させていくことを期待したい。

指導者の養成確保は、どの市町村においてもスポーツ振興を図る上での大きな課題となっている。知名度の高い講師の招聘がスポーツ推進委員のレベルの向上に、そして指導者養成講座の参加者の増加に結びついたことは素晴らしいことであり高く評価したい。

焼津市とのスポーツ姉妹都市交流は、交流競技の固定化という課題を抱えつつも計画通りに行われ振興が図られていたようである。こうした交流は、市民スポーツの活性化にもつながることであり、交流種目の拡大を図りつつ大切にしていきたい。

施設設備については、限られた予算の中でとなると改修整備箇所の順序性などなにかと難しさも伴うが、安全の確保はスポーツの振興を図る上で最も留意すべきことであり、今後とも計画的・迅速的で確な対応に努めていただきたい。

教育委員会に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
(平成26年度実績)

発行日／平成27年9月
編集発行／土岐市教育委員会 庶務課

〒509-5192

岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101番地

電話番号：0572-54-1111（代表）

E-mail：syomu@city.toki.lg.jp